会議結果報告書

令和7年4月22日

会議の名称	令和6年度 第4回 舞鶴市子ども・若者支援会議	
種別	☒ 附属機関 ☐ 懇話会等	
開催日時	令和7年3月11日(火) 14時～15時30分	
開催場所	舞鶴市政記念館 ホール	
出席者	別紙のとおり	
議題	1. 報告事項 (1) 「舞鶴市こどもまんなか計画(案)」に関するパブリック・コメントの実施結果について (2) 「舞鶴市こどもまんなか計画」の策定について	
公開の区分	☒ 公開	
	☐ 部分公開	[理由]
傍聴者数	3名	
審議結果及び主な意見等	・別紙「議事録」のとおり	
会議録の作成様式	☐ 詳細 ☒ 要約	
備考		
担当課	舞鶴市健康・こども部 こどもまんなか室 子育て応援課 TEL (0773)66-1008	

令和6年度舞鶴市子ども・若者支援会議委員 出欠簿（第4回子ども・若者支援会議）

No.	団 体 等	役職名	委員氏名（敬称略）	肩書き	出欠
1	社会福祉法人舞鶴学園	理事長	桑原 教修		出席
2	京都府中丹東保健所	福祉課長	熊取谷 晶		出席
3	舞鶴自治連・区長連協議会	会長	福本 清		出席
4	舞鶴市民間保育園連盟	会長	楠 崇智	なかすじこども園長	出席
5	両丹私立幼稚園協会	副会長	畠中 好野	朝来幼稚園長	出席
6	舞鶴市小学校長会	役員	弓下 伸二	吉原小学校長	出席
7	舞鶴市中学校長会	役員	阪口 靖敬	加佐中学校長	出席
8	京都府立西舞鶴高等学校	副校長	奥本 有紀	副校長	出席
9	舞鶴市PTA連絡協議会	副会長	清岡 大亮		欠席
10	公益社団法人京都府助産師会丹後支部	支部長	永木 ひとみ		出席
11	社会福祉法人舞鶴市社会福祉協議会	事務局長	仲川 真広		出席
12	舞鶴市民生児童委員連盟	児童部会長	西川 浩明		出席
13	舞鶴商工会議所	専務理事	小谷 裕司		出席
14	一般財団法人舞鶴勤労者福祉協議会	事務局長	保田 信三		出席
15	舞鶴子ども育成支援協会	会長	池内紀代子		出席
16	NPO法人まいづるネットワークの会	副理事長	上野 和美		欠席
17	公募		武田 マリ子		欠席
18	公募		谷口 英子		出席

※任期3年（令和4年5月20日～令和7年5月19日）

令和6年度第4回舞鶴市子ども・若者支援会議議事録（要約版）

日時：令和7年3月11日（火）

午後2時～3時30分

場所：市政記念館ホール

1 出席者・欠席者：別添 委員名簿のとおり
事務局：舞鶴市健康・子ども部

2 議事等

(1) 報告事項

- ①「舞鶴市子どもまんなか計画（案）」に関するパブリック・コメントの実施結果について
- ②「舞鶴市子どもまんなか計画」の策定について

(2) その他

(3) 閉会

<質疑・意見等>

(1) 報告事項

- ①「舞鶴市子どもまんなか計画（案）」に関するパブリック・コメントの実施結果について
事務局より説明

(A 委員)

- ・図書館分館の案は、確定しているものなのか。

(事務局)

- ・今回のパブリック・コメントに関するご意見への回答については、担当課である図書館課とも協議し、回答案を作成したところである。
- ・現在、本市では、図書館課が所管で図書館基本計画に基づき、図書館再編の取り組みを進めていることから、子どもまんなか室の立場で今後の方針等についてお示しすることは難しい。ご了承いただきたい。

(B 委員)

- ・パブリック・コメントでの意見が、お1人から4件のみと少ない。本計画への反応・関心の少なさに対しての事務局の受け止め方など、何か考えていることはあるか。

(事務局)

- ・今回、同時期に3課4件のパブリックコメントを行った。広報の方法はどれも同じであったが、他の計画のパブリック・コメントには、もう少し意見があったと聞いている。5年前の第2期計画時のパブリック・コメントにはご意見がなく、今回もお1人4件しかなかったことに対して、次期計画策定の折には、さらに幅広く興味を持っていたような周知等の方法を検討しないといけないと考えている。

- ②「舞鶴市子どもまんなか計画」の策定について

事務局より説明

(A 委員)

- ・第2期の計画の中で、市民の方に周知するという点で課題が見えてきたと思うが、今回の計画の周知方法はどのようにするのか。

(事務局)

- ・まず、広報まいつるの4月号に、子どもまんなか計画の市ホームページへのQRコードを掲載する。冊子化には費用がかかるため、パブリック・コメントを実施した場所には冊子で配架するが、あとはデータで閲覧いただくことになる。周知の方法については、

今後検討を進める必要がある。委員の皆様方からも、周知に協力いただけるとありがたい。

(C 委員)

- ・概要版だけをみていると、重点施策までの流れはよく分かるが『「必要な事業量の見込み」と「提供体制の確保」について』の部分の計画本体との関係が分かりにくいいため、確認をさせていただきたい。

(事務局)

・ご指摘いただいた部分は、計画本体では第5章「必要な事業量の見込み」と「提供体制の確保」に該当している。この第5章は、令和7年度からの5年間における、乳幼児期の教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業について、国の示す算定の考え方を踏まえつつ、子育て中の保護者を対象に実施した「こども・子育て支援に係るニーズ調査」の結果をもとに、「必要な事業量の見込み」を算出するとともに、その需要量に対する事業の提供体制とその実施時期を明示した「確保方策（供給方法）」を示したものである。

つまりは、本市の実情に応じた適切な提供体制の充実を目指すものであり、概要版に記載の『「必要な事業量の見込み」と「提供体制の確保」について』は、本計画の第5章と関係・連動しているものとして、理解いただきたい。

(A 委員)

- ・本計画期間中の定期的な評価はどうしていくのか。

(事務局)

- ・毎年の実績報告を委員の皆さまにお示し、進捗状況を協議・評価していただく方向である。

(D 委員)

- ・こんにちは赤ちゃん事業について、本計画の第5章にもあげていただいているように、大切な事業であると認識している。しかし、計画の59ページの現状・課題にもあるように、訪問を望まない家庭が増えているという事実がある。以前は、1ヶ月に8~9件

程

度の訪問があったが、先月は僅か3件であった。このように、訪問を希望する家庭が非常に少ない状況である。

- ・以前のように希望の有無にかかわらず訪問する、もしくは民生委員から連絡をするなど、実施方法を工夫しながら事業として継続していくべきではないか。また、生後3ヶ月という訪問時期は保健師の訪問と近いため、時期をずらして実施するなどの工夫も考えられる。このままの方法で続けていても事業として成り立たなくなってしまうのでは、と危機感を感じている。

(事務局)

- ・令和6年度から本事業の担当が、舞鶴市こども家庭センターとなり、新生児訪問との情報連携が可能となったことから、この強みを活かし、この5年間も引き続き本事業のご協力等についてお世話になりたい。

(D 委員)

- ・今の方法のままで実施ということではよいか。

(事務局)

- ・事業実施の方法等に関しては、事業の担当課であるこども家庭しあわせ課が対応について検討する。

(B 委員)

- ・いわゆる行政特有の硬い文章で書かれた概要版は、誰を読者と想定しているのかが不明瞭である。市職員や学識経験者には理解できても、肝心の市民の方々にとっては少し分

かりにくいのではないかと感じた。市民の方々や、アンケートに答えた子ども達自身にとって、計画を身近に感じられるような入口として、概要版を使えないか。アンケートで答えた自分たちの意見がどのように反映されているのか、他にどのような答えがあったのか、その結果を子ども達へどう返していくのかを考えるいいチャンスだと思う。計画本体やアンケートの結果を閲覧できる QR コードを添付するなどの工夫をすることで、もっと意味のある概要版になるのではないか。

(事務局)

- ・ご意見を参考に、概要版に QR コードを添付し、子どもまんなかアンケートの結果等を閲覧できるようにするなどの工夫で、子ども達が「自分の意見が載っている」と実感できるようなものに改善をする。

(3) 閉会

各委員より一言ずつ挨拶をいただき閉会。